

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	eビジネス経営論(e-Business Management)		授業コード	C162901
担当教員名	中山 直樹		科目ナンバリングコード	P30903
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分		単位数	2	
履修上の注意または履修条件	指定席制			
受講心得	遅刻・欠席をしないように心がけてください。			
教科書	井上善海、佐久間信夫 共著「よくわかる経営戦略論」(ミネルヴァ書房)			
参考文献及び指定図書	大滝精一、金井一頼、山田英夫、岩田智共著「経営戦略」(有斐閣)			
関連科目	情報システム基礎、情報システム論、プログラミング入門、プログラミング言語、データベース論、ネットワーク論、経営情報論、会計情報処理論、情報会計論、社会情報論、経営情報システム事例研究、コンピュータ特論、システム分析論、統計理論、データ解析A、データ解析B			

授業の目的	この科目の目的は、全てのビジネスに共通する様々な経営戦略手法について具体例を交えながら考察することを通して、eビジネスならではの特徴的な戦略について理解を深めることにあります。高度経済成長の終焉に伴い日本企業が大きな転換点を向かえている今日、企業間競争における生き残りにおいて最も大きなポイントとなるのが経営戦略です。具体的には、ドメイン決定、PPM(ポートフォリオマネジメント)、多角化戦略、グローバルイゼーション、プロダクトライフサイクル、競争メカニズム分析、M&A、アライアンス、SEO、OnetoOneマーケティングなどを習得していきます。
授業の概要	社会情勢の多様化や情報技術の進展に伴って、企業経営は複雑になり、経営戦略は、ますます重要になっています。この授業では、情報社会における経営戦略とは何かということを基本的に理解し、ドメインの定義や決定方法をはじめとして、資源展開の戦略、競争戦略、組織間関係の戦略、経営戦略の策定、経営戦略・イノベーションなどについて学習します。このように、経営戦略の革新、新規事業創造の戦略、経営戦略と組織の在り方や経営戦略の新しい潮流などを含めて、経営戦略の基本を学習します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：</b> 経営戦略とは 経営戦略とは何かを学びます。学習項目としては、経営戦略の意義、経営戦略の研究の流れ、経営戦略の概念と内容、経営戦略の二面性、現代企業の経営戦略の要件などを取り上げます。	第1回～第15回 毎回の学習テーマをインターネットや文献を通じて調べ、予習を行う。
<b>第2週：</b> eビジネス経営概説 インターネットが普及し、情報化が進んだ現代社会での企業経営について、その特色や戦略を学習します。情報化に成功した企業や失敗した企業の具体例を通じて、高度情報化社会における企業経営戦略の意義や重要性を考察します。	
<b>第3週：</b> 事業領域の定義 事業領域の定義について学習します。学習項目としては、企業ドメインとは、ドメイン定義の意義と考え方、ドメイン定義の次元、企業ドメインと事業ドメイン、企業の成長とドメインの変化などを取り上げます。	
<b>第4週：</b> 戦略の策定 戦略の策定について学習します。学習項目としては、企業戦略の策定、事業戦略の策定、外部環境の分析、経営資源の分析、経営資源と戦略などを取り上げます。	
<b>第5週：</b>	

<p><b>競争の戦略</b> 競争の戦略について学習します。学習項目としては、セグメンテーション、競争の基本戦略、競争と強調の戦略、攻撃戦略、タイムベース競争などを取り上げます。</p>	
<p><b>第6週：</b> <b>新規事業創造の戦略</b> 新規事業創造の戦略について学習します。学習項目としては、新規事業創造の戦略の意義、大企業における新規事業創造の条件、新規事業創造におけるミドルの役割などを取り上げます。</p>	
<p><b>第7週：</b> <b>企業の製品戦略</b> 企業の製品戦略について学習します。学習項目としては、プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)、プロダクトライフサイクル(PLC)、経営資源の最適配分、成長のための戦略投資理論などを取り上げます。</p>	
<p><b>第8週：</b> <b>ネットワーク戦略／理解度確認テスト</b> ネットワーク戦略について学習します。学習項目としては、ネットワーク型アライアンス、ネットワーク組織、シナジー戦略、先進企業のバーチャル組織などを取り上げます。また、講義の後半では理解度確認のための小テストを実施します。</p>	
<p><b>第9週：</b> <b>グローバル戦略</b> グローバル戦略について学習します。学習項目としては、グローバル戦略の問題、グローバル戦略と経営環境、グローバル戦略と経営資源、グローバル戦略と経営組織、グローバル戦略の変化などを取り上げます。</p>	
<p><b>第10週：</b> <b>成長の戦略</b> 成長の戦略について学習します。学習項目としては、成長のための協同政策であるアライアンス、成長の最大戦略であるM&amp;A、経営資源の戦略的活用、リスク・マネジメントなどを取り上げます。</p>	
<p><b>第11週：</b> <b>経営戦略と社会</b> 経営戦略と社会について学習します。学習項目としては、企業と社会、企業の社会的責任と社会的貢献、経営戦略と国際社会、企業のガバナンス、企業の経済戦略と社会戦略などを取り上げます。</p>	
<p><b>第12週：</b> <b>経営戦略の実現</b> 経営戦略の実現について学習します。学習項目としては、人と組織のマネジメント、組織構造、組織と情報システム、インセンティブ・システムと人事制度、組織文化などを取り上げます。</p>	
<p><b>第13週：</b> <b>経営の変革(イノベーション)</b> 経営の変革(イノベーション)について学習します。学習項目としては、企業イノベーション、イノベーションマネジメント、企業革新のモデル、成熟企業における企業革新などを取り上げます。</p>	
<p><b>第14週：</b> <b>企業の情報戦略</b> 企業の情報戦略について学習します。学習項目としては、経営情報システム、ビジネスプロセス革新(BPR)、eビジネス経営、ナレッジ・マネジメントなどを取り上げます。</p>	
<p><b>第15週：</b> <b>高度情報化社会の先進的経営戦略手法</b> インターネットの高度技術を駆使した経営戦略手法について学習します。学習項目としては、SEO・SEMや米国企業の先進手法などを取り上げ、事例と視聴覚教材などを通じて学習します。</p>	
<p><b>第16週： 期末試験</b></p>	

期末試験 試験時間は80分で、教科書の持込を可とします。		
<b>授業の運営方法</b>	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	情報を活用した戦略的企業経営への関心を強く持つこと
<b>【知識・理解】</b>	経営情報学の基礎的知識と応用的な経営戦略に関する知識を修得すること
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	戦略策定の方策を自らの生活や実社会に置き換えて適応できること
<b>【思考・判断・創造】</b>	情報を活用した新たなビジネス戦略を創造的に企画できること

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	40点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点			
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	20点	20点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	講義を通じて獲得した知識を活用して、自分なりに適応した思考や企画を持てるかを見る。
発表・その他(無形成果)	